

ふべからずとおもへど、それはたかよはしかけるあり、今そのひごつをいはんに、

續日本紀卷二、文武大寶元年、令僧辨紀還俗代度一人、賜姓春日倉、首名老授追大壹、

同六、元明和銅七年、授正六位上春日倉、首老從五位下、

懷風藻從五位下常陸介春日藏老、

倉棕藏、文字はかはれど、いづれもクラとよむなり、

〔古事記上〕布刀玉命者忌部首

〔日本書紀二十九〕十三年十二月己卯、忌部連中賜姓曰宿禰、

〔古語拾遺〕至于淨御原朝、天改天下萬姓、而分爲八等、唯序當年之勞、不本天降之績、中其三日宿

禰、以賜齋部氏、

〔日本逸史十二〕延曆二十二年三月乙丑、右京人正六位上忌部宿禰濱成等、改忌部爲齋部、古記引

〔古事記傳十五〕此はたゞ字を改めたるなり、凡て古は姓名なども、文字は心に隨せていかにも

書るを、此ころは既に其も定まれるなり、

〔日本書紀三十〕元年八月己未、天皇使直大肆藤原朝臣大島直大肆黃書連大伴請集三百龍象大德

等於飛鳥寺、奉施袈裟、人別一領、七年三月庚子、賜直大貳葛原朝臣大島、賻物、

〔釋日本紀二十二〕葛原朝臣私記曰、藤原

〔懷風藻〕從五位下上總守伊支連古麻呂一首略詩

○按ズルニ、伊支、本書ノ目錄ニハ雪ニ作レリ、

〔萬葉集十五〕到壹岐島、雪連宅滿忽遇鬼病、死去之時、作歌一首、并短歌略歌

〔新撰姓氏錄山城國神別〕阿刀宿禰

石上朝臣同祖、饒速日命孫、味饒田命之後也、